

## 令和4年度第1回鉄鋼最低賃金専門部会（議事要旨）

1 日 時 令和4年9月27日（火） 9時09分～9時59分

2 場 所 山口地方合同庁舎2号館5階会議室

3 出席者 公益代表委員 3名  
労働者代表委員 3名  
使用者代表委員 3名

### 4 議 題

- (1) 部会長、部会長代理の選任について
- (2) 特定最低賃金について
- (3) 金額審議について
- (4) その他

### 5 議事要旨

- (1) 部会長に通山委員、部会長代理に赤穴委員が選出された。
- (2) 事務局から、特定最低賃金制度の概要の説明を行った。
- (3) 労働者側から以下のとおり主張がされた。
  - ・鉄鋼業は基幹産業といわれ、国の経済発展の基礎となる重要な産業であり、優秀な人材を確保し、技術・技能を確実に伝承し続けていくためには、産業・企業の魅力を高め続け、採用力を強化していかなければならない。
  - ・優秀な人材を確保するためには、産業としての魅力を高めていかなければならず、適切な鉄鋼特定最低賃金額は必要不可欠である。
  - ・就職先に山口県以外を選択され、貴重な人材が県外に流出している現状は歯止めを掛ける必要がある。ぜひ、鉄鋼産業としての魅力を高め、山口県の人口流出防止を図り、ひいては山口県内の活性化に繋げていかなければならない。
  - ・近隣県をにらんだ金額水準の改善についても取り組んできたところであり、その結果、昨年995円となり広島県と並ぶ水準に至ったことは、これまでの取組の成果である。
  - ・特定最低賃金の底上げの取組を進めていくことが、山口県の産業・企業の

魅力を高め競争力強化に繋がること、さらには県内の人口減少問題にも一石を投じることが出来ることから、金額水準の改善を求める。

(4) 使用者側から以下のとおり主張がされた。

- ・当面の経済および鉄鋼需要の下振れリスクとして、サプライチェーンの混乱に加えて、半導体を中心とする部品供給制約による生産活動の停滞、ロシア・ウクライナ情勢の長期化や脱炭素化等による原料・燃料価格の高騰、インフレの高進、欧米などにおける金融引締めに伴う為替変動リスク等が懸念されており、国内外の経済及び鋼材需要の動向を引き続き注視する必要がある。
- ・優秀な人材の確保には鉄鋼業界も苦慮しており、優秀な人材確保や県外流出を防ぐためにも、ある程度の賃金の保証が必要だが、今年のような中央最低賃金審議会の目安を上回る過去最高の地方最低賃金の上げは、企業の弱体化につながるリスクがある。
- ・国内企業物価指数は8月速報値で前年同月比9.0%増、そのうち業種別の鉄鋼は同26.1%増、非鉄金属は10.5%増と企業収益を圧迫している。
- ・国内外の状況を見定めつつ、特に影響の多い中小企業の実情を念頭に置きながら、労使で真摯な議論を行い、山口県の鉄鋼特定最低賃金として適正な金額の設定を目指していきたいと考えている。

(5) 事務局から、今後の審議日程について説明を行った。

(注) 鉄鋼最低賃金専門部会の正式名称は「山口地方最低賃金審議会 山口県鉄鋼業、非鉄金属製錬・精製業、非鉄金属・同合金圧延業、非鉄金属素形材製造業最低賃金専門部会」である。